

第三学年国語科学習指導案

日 時	平成21年11月13日(金) 5校時
場 所	陸前高田市立気仙中学校3A教室
生 徒	3年A組22名(男子13名・女子9名)
授業者	熊谷美香

- 1 単元名 第四単元 古典を楽しむ
教材名 「君待つと 一万葉・古今・新古今」

2 教材について

(1) 生徒観

四月に行った標準学力調査の結果は期待値 71.6 に対して平均正答率 76.8 となっており、市内平均も上回っている。しかし、領域別に見ると「読むこと」に若干の落ち込みが見られる。文中から解答を導き出すことはできるものの、心情を推し量ったり、情景を考えたりすることを苦手としている生徒が多い。

学習や授業に対する意欲はあるが受動的な姿勢が目立つ。言語事項の確認や文法といった解答が確定されている時は発言も活発であるが、自らの意見を述べることや、他と意見を練り上げることには苦手意識があり、発言には至らないという状況があった。意見を発表させる前に、自分の考えを記述する習慣をつけさせることにより、改善が図られてきている。

短歌の学習においても同様の傾向があり、「情景や心情をとらえて鑑賞文を書く」という課題に抵抗をおぼえる生徒が多かったため、「鑑賞文」を「物語」と置き換え、どの生徒にも取りかきやすくしている。

自分の考えを持ち表現する活動については、自分の考えの良い点や他の生徒の良い点を確認する場面を授業の中に位置付けていくことで、改善を図っていきたいと考える。また、ふりかえりについては、まだ感想に終始している者が多いので、ふりかえりが次の学習につながることを意識させたい。

(2) 教材観

本教材は、二年生で学習する「短歌を味わう」からつながる教材である。学習指導要領「C 読むこと」のうち、第三学年の「イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること」に位置付けている。特にも、和歌における「場面や登場人物の設定」をとらえることにより内容理解を深めることを目標として指導したいと考える。

本教材を含む第四単元は「昔の人の思いや考え方をとらえ、古典を楽しむ」ことを目標としている。古典を楽しむとは、古典の文章や和歌を読んだり、学んだりするだけではなく、そこから今の生活を刺激し豊かにすることである。三大歌集といわれる「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の17首からなる「君待つと」の中にも、今を生きる私たちが共感し、思いをはせることのできる作品が多い。言語表現にこだわって生きた歌人たちに焦点をあて、その作品を味わうことや、生き方に触れる中で言葉と人間の関わりについての認識を深めることを、本教材ではねらいとしている。和歌についての理解を深め作品の響きやイメージに広がりをもたせることもできると考える。

また、和歌を自分なりに解釈していくことで、短歌表現が「感覚」や「心」の動きであることをつかませ、生徒一人一人の自由な発想のもとに、作品にふれ和歌を読むという学習経験をさらに豊かなものにするにふさわしい教材である。

(3) 指導観

短歌は日本人が一千年以上にわたって受け継いできた日本の文化であり、ある程度生徒の中にも知識として「短歌」というものが根付いていることは確かである。しかし、生徒の有している知識は量にしても深さにしても差があることは予想できる。そこで、本教材を通して短歌の形式や研ぎ澄まされた表現について学習するとともに、目標となる言葉の響きを生み出した作者の心情をつかませたいと考える。

自分の考えをもつための活動については、短歌の「物語」(鑑賞文)を作る際の書き込み・表現(交流)・再構成というサイクルを活用しながら行いたい。特に表現し合う場面では、根拠に

基づく、話し合いができるようにする。

また、自己選択の幅や相手意識を持たせることで、苦手意識のある生徒にも自分の考えを持たせていきたい。

【本教材についての「物語」の位置づけ】

一般的には鑑賞文としてとらえられているものであるが、本教材では苦手意識をもつ生徒の抵抗感を最小限に抑えること、そして、豊かな発想を導き出すことを目的として、限られた音数の「和歌」の裏側にある「物語」を綴ることを授業の柱として位置付けている。

「物語」を作るためには、

- ・和歌に歌われている言葉についての解釈を行う。：書き込み
- ・書き込みをもとにした「情景」を描く。（場所・時期・登場人物 等）
- ・「情景」をもとに「心情」をとらえる。（作者の目線）

という手立てを踏まえて「物語」を書くが、その際の確認事項は次の三点である。

- ・小学六年生に「和歌」を理解してもらえるように書く。（相手意識をもつ）
- ・字数を選択（150字・200字・300字・400字）してから書く。（自己選択）
- ・一人称、三段落構成で書く。（構成）

これらの過程を経たものを、本教材では「物語」として位置付けている。

3 教材の指導目標

【関心・意欲・態度】

- ・音読を通して和歌のリズムに親しむとともに、表現の美しさを味わおうとしている。

【読むこと】

- ・和歌にふれ、語句や表現から情景や心情をとらえ、自分の言葉でまとめることができる。

【言語事項に関する知識・理解】

- ・歴史的仮名遣いや、古文特有の語句など、作品の特徴を理解することができる。

4 教材の指導計画と評価規準（6時間扱い）

時間	指導計画	評価規準		
	学習内容	関心・意欲・態度	読むこと	言語に関する知識・理解
1	音読と内容理解 ・三大和歌集について学び、「万葉集」の作品にふれる。	和歌に対して、興味・関心をもっている。	昔の人のものの見方や考え方にふれ、和歌に詠まれている情景を理解することができる。	助詞のない表現や、係り結びなど古文特有の表現に気づき、理解することができる。
2	内容理解 ・和歌を読み、情景をとらえ、作者の「思い」をつかむ。	和歌の世界を読み味わい、進んで作品に向かっていく。	和歌の情景をとらえながら、作者の目線にたち、「思い」をつかむことができる。	情景を想像しながら音読し、古典特有のリズムに親しむことができる。
3	「物語」の作成 ・和歌の語句や表現に即して、思い浮かべた情景や心情を「物語」としてまとめる。	自分の考えを持ちながら和歌を味わおうとしている。	和歌から心ひかれた言葉や表現を見つけ、「物語」にまとめることで、情景や心情をとらえることができる。	

4 本時	「物語」の交流 ・提示された「物語」を読み、心情をとらえるために必要な要素をとらえる。	根拠をもって課題に取り組もうとしている。	友達の「物語」を読み、心情に迫るために必要な要素をとらえることができる。	
5	「物語」の再構成 ・交流で得た要素を用いて、「物語」を練り直す。	より心情に迫った「物語」を作ろうとしている。	表現の工夫とその効果をとらえ、心情をつかむことができる。	
6	鑑賞文の作成 ・「古今和歌集」「新古今和歌集」の中から、自分の好きな和歌を選び鑑賞文を書く。	前時までの学習を基に鑑賞文を作ろうとしている。	脚注や解説を参考にしながら、和歌の内容を理解し、鑑賞文を書くことができる。	古文特有の表現に気づき、古文と現代文の言い表し方に違いがあることを理解することができる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①根拠をもって課題に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ②友達の「物語」を読み、心情に迫るための要素をとらえることができる。(読むこと)

(2) 本時の指導構想

提示された「物語」を読み、心情が効果的に描かれている部分をとらえる。その際、前時までのふりかえりを活用し、根拠をもってよさをとらえさせる。「表現し合う場」に関しては、話し合いの視点を与えることと、他のグループの考えとの比較を通して深まりをもたせる。まとめの場面においては、自分の言葉で文章化を行い、学習内容の定着を図る。

(3) 具体の評価規準と評価方法

観点	評価方法	B：おおむね満足できる	C：支援を要する生徒への手立て
意欲・関心 ・態度	観 察	根拠をもって、課題に取り組もうとしている。	「物語」の中の効果的な表現を見つけ、その理由を考えさせる。
読むこと	ノート ワークシート	「物語」(鑑賞文)を書く時には、心情の深まりが必要であることを理解することができる。	前時までのふりかえりを参考にして、「物語」(鑑賞文)を書くときのポイントに気付かせる。

(4) 本時の展開

過程	学習活動	活動内容	指導上の留意点	
導入 5分	1 前時の想起	1 和歌の裏側にある「物語」について確認する。	・自分の「物語」を見直す。	
	2 学習課題の把握	2 教師の話聞き、課題を把握する。		
友達の「物語」から、和歌のとらえ方の違いを見つけよう。				
展開 43分	3 和歌の音読	3 一斉読をする。	・歴史的仮名遣いに注意して音読をさせる。 ・とらえ方の違い(自分の「物語」との違い)がある部分にサイドラインを引かせる。 ・「物語」を書くときの条件を確認する。(情景・心情・一人称・相手意識) ・文章の脇に根拠となるものをメモしていく。 ・ホワイトボードを活用する。 ・話し合いが深まるように視点を与える。(友達の「物語」が自分のイメージと異なっていたり、心情のとらえ方に違いがあるのはなぜだろうか。) ・他のグループの発表内容について、自分たちの意見との相違を確認させることで、考えを深めさせる。 ・[読むこと] B:「物語」(鑑賞文)には、心情の深まりが必要なことを理解している。 C:ふりかえりを参考にして、鑑賞文を書くときのポイントに目を向けさせていく。 ・「物語」を書くときに大切なこと(まとめ)と、それを次にどう生かしていきたいかを、二段落構成で書かせる。 ・机間指導の際、指名しておき板書させる。 ・板書のまとめと自分のまとめを比べ、足りないものがあつた場合は、メモをとる。	
	4 「物語」の把握	4 友達の「物語」から、とらえ方の違いを見つけながら、教師の読みを聞く。		
	5 課題の解決	5 自分の「物語」との違いから、友達の「物語」のよさを探し、ワークシートに書き込む。		
	6 意見の交流(グループ)	6 グループ内で考えを交流させ、「物語」のよさ、違いは何から生まれるのかを考える。		
	7 意見の交流(全体)	7 グループ内で確認した内容を発表し、「物語」の違いを生んだものとは何なのかを考える。		
	8 まとめ(ふりかえり)	8 発表全体を通して、気づいた「物語」を書くときに、大切なことをまとめる。		
	[まとめ(ふりかえり)]			・心情を表わす言葉に着目し、考えを膨らませることにより、より深い「物語」を作ることができる。次に書く時には、心情を表わす言葉に着目していきたい。 ・情景をしっかりとらえ、和歌に描かれていない部分の作者の気持ちを考えたり、作者の目線を意識したりすることが大事である。次に書くときには、情景をとらえ直し、心情を考えたい。
	終末 2分	9 次時の予告		9 今日の授業で確認したことを生かして「物語」を再度練り直すことを確認する。

【板書計画】

君待つと吾が恋ひおれば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く

額田王

〈学習課題〉

友達の「物語」から、和歌のとらえ方の違いを見つけよう

・心情を詳しく表現するには、和歌中の言葉に着目していくことが大事。

・動きのあるもの（風）に作者の心の動きを重ね合わせるとよい。

・作者の置かれている状況を明確にすることで心情に迫ることができる。

・作者の目線に沿って、「物語」を描いていくと、心情に深まりが出る。

・和歌に描かれている瞬間の「その後」を想像し、作者の想いを考えるとよい。

〈まとめ〉

・和歌中の言葉に注目し、考えを膨らませることによって「物語」を深めることができる。次に書くときは、特に心情を表わす言葉に着目したい。

・情景を明確にし、作者の心が投影されている部分を深めることにより、「思い」に迫る。次に書く時には、情景をとらえなおしてから、心情を考えたい。